

# むかあーし むかしの話だけんどよう

## 第2回 民話めぐりウォーキング

《10月25日(土)・奥富》を終えて

「おはようございます。よかったですねえ、民話めぐり日和の天気で!」と集まったスタッフの挨拶。奥富民話めぐりウォーキングの開始である。今回は公募による19名を含め26名の参加、安全協会の方2名が列の前後について出発!

講師の塩野谷延夫さんを先頭に、広福寺・塩釜神社・八雲神社・瑞光寺・梅の宮神社をめぐり4つの民話を語った。

**「紅梅と将軍さま」** 将軍家光が川越の殿様と狩りをしていて、龍宮を思わせる山門の広福寺に来たというびっくり仰天の話。以前「これは時代背景がおかしい。山門が出来た頃と家光の時代が合っていない」と指摘された方がいた。でも、これはこれでこの寺にこの地に伝わりずっとつながっている話である。初めての紙芝居仕立ては評判がよく、今後他のお話も作成していきたい。



**「いぼ神さまとまめだわら」** 道端にぼつんと立っている馬頭さま。身体にいぼができて困っている人が願をかけ、治った時にお礼に豆俵を三つ供えたという。小さな馬頭さまは市内のあちこちにあるが、その時代や土地の人々の心のよりどころになっていたことがわかる。

**「アカマ川の小判」** 川越のお城の堀に水を入れるため川を掘ることになる。奥富は石ころだらけで大変な難所、村人の士気を上げるために名主の取った策はヤブの中に小判を埋めた。殿様やお役人の言いなりになるのではなく「おらほうじゃよう・・・」と主張したり、うつぶんを滑稽さに変えてしまったりする庶民の生きざまが伝わってくる。

**「奥富のコウシュウマル」** 甲州から川越に来た但馬守は、甘柿を甲州から持ち込み地場産業の一環とした。それが元になって奥富には禅寺丸(元は甲州丸と言われている)という名の甘柿が多くの家になっている。大きな柿の木の下で、塩野谷さんが持参して下さった柿を食べながらお話を聞く。但馬守から延々とつながる甘柿の話は、その時代に生きた人々の思いが伝わってくる。

今回も多くの方の協力があったことに感謝である。講師の塩野谷さんは資料の収集、柿の木所有の清水さん宅への交渉等、お忙しいのに奔走して下さいました。瑞光寺での冷たいお茶の接待、とても美味しかったです。梅の宮神社では、宮司さんの丁寧な説明に感謝。JA奥富では駐車場を快く貸して下さい、市の広報課は広報「さやま」に、奥富公民館は公民館便りに当会のことを掲載していただいた。文団連理事の皆さんにはスタッフとして協力していただいた。安全協会の2名の方についていただき安心して行動できた。

参加者の声 \_\_\_\_\_

狭山市にすんで20年たつが、まだまだ知らないことが沢山あることを知った。平安時代からの歴史があることにびっくり。また他の場所で開かれたら参加したい。

狭山の民話を広めるプロジェクト

小川 豊子

